

【開催概要】

日 時： 平成25年1月28日(月)午後7:15～午後9:10

会 場： 黒埼南部公民館 多目的ホール

出席者： (仮称)内野地区集会施設検討委員会 委員

岡本委員、小林委員、渡辺委員、元木委員、大川委員、横山委員、道上委員
事務局

市川西区地域課長、小林西区地域課長補佐、西区地域課職員、
石塚西出張所長、西出張所職員

【会議内容】

1 開会

2 議事

(岡本会長)

それでは議事に入りたいと思います。今年もよろしくお願ひしたいと思います。

今年に入り、6回ほど内野の町で新年会に出ましたが、この集会施設にみんなものすごい期待を持っており、1月1日付でコミュニティ協議会の広報紙に検討委員会でこんなところまで議論してますと掲載したものですから、非常に関心が深く、非常に大きな期待を寄せている感じを受けています。

従いまして、皆さんときっちりと議論して、地域の皆さんにお応えできるようなものを討議して、行政にお願ひしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

次第に従って進めてまいります。今日まで5回にわたり、視察で説明を聞き、協議してきたものをまとめさせていただくと、200人程度収容できる規模の集会施設が必要で、座席は椅子を並べて多様な使用ができる、床は板敷きで軽い運動にも使用できる、手動式の舞台を付ける。それから、会議、講演、体操、演奏など幅広い用途で使用できるものである、と。

また、災害時に一時避難や避難指示ができる、本部ができるような機能に対応するものであったほうがいい。従って、内野は砂丘地を除きゼロメートル地帯になっているので、高層建築的なものとする。付随して、保健センターや子どもたちが遊べる保育室など、地域の人交流できるオープンスペースを1階に整備する、というようにさまざま意見があったと思います。

今日は、集会所以外の機能をどのようなものを合築させていったほうがいいのかという面から、議論を進めることにしたいと思います。

それで、前回、ポンチ絵（非常に簡易な平面図）を事務局に描いていただきたいということで、これを基に説明いただいて話を進めていきたいと思いますので、その説明を事務局からしていただきたいと思います。

この絵は、私どもがいろいろ議論しても、姿が見えないとなかなか前に進まないことから、事務局にお願いし、こんなものというイメージをポンチ絵として出していただきました。これが一人歩きすると、今後の議事進行に差し障りになる可能性も十分ありますので、会議が終わったら、回収させていただきますので、ご了承、お願いいたします。

従いまして、事務局から、この図面を、たたき台を説明していただきたいと思います。

（事務局：小林地域課長補佐）

それでは、私からポンチ絵の説明をさせていただきます。図面の精度とか、全く至らない点が多いかと思いますが、ご了承いただきたいと思います。説明させていただきます。

このポンチ絵は、会長から話があったように、今まで出された集会施設の機能についての議論とか意見、それと第1回の視察後に皆さんからいただいた、施設や機能のアンケートの内容、その他類似施設も参考に、集会施設の内容を検討させていただきました。それと、改築の方向が出た場合、西出張所、西地域保健センターも合築した形で作ってみました。そんなことで、イメージを皆さんに描いていただきたいと思っております。

大まかに今までの議論やアンケートなどをまとめると、3つの視点があったのではないかと思います。

まず第一に、人が気軽に交流できるまちづくりの施設の視点として、いつでも誰でも気軽に交流の場を使える、団体活動、サークル活動、会議や研修、講演等で人が集ってつながるような場、その辺りを考えた交流するまちづくりの場ということ。

第二に、命をはぐくむ人づくりという観点で、子育て関係の場として、知識を習得したり、情報交換、また、高齢者の生きがいとして、地域の茶の間などの生きがいづくりと健康づくりの場所、それから子どもの自主学習の場もあるといいというのがありましたので、命を育んでいくような人づくりという観点。

第三に、まちとつながるにぎわいを創出する場所として、いろんなまちの情報提供や発信の場、まちの歴史や文化を知って、まちに愛着を深めてもらうような場、そういった観点があったと解釈し、これを踏まえて、各階の集会施設の機能を考えてみました。

まず、1階につきましては、気軽に来て思い思いの時間を過ごせる場所ということで、交流スペース、まちの情報コーナー、学習室、会議室などを配置し、併せて、西出張所を配置

してみました。

交流スペースは、テーブルや椅子があって、子どもから大人まで気軽に時間を過ごせるよう、打ち合わせにも使えるようなスペースで考えました。併せて、ミニ演奏会などのイベントにも使用できることを考えました。

情報コーナーは、先ほど話したように、にぎわい、まちとつながる場所ということで、まちの情報提供、発信の場として、地域の歴史や産物、店の紹介、いろんな地域の方々のイベントなど、取り組みの紹介の場みたいなものがないかなと思っております。

次に、学習室ですが、中高校生や大学生、特に新大が近くにありますので、そういった皆さん方が学習する場所として、仕切りがあって個々に勉強できるような感じを想定しています。黒崎市民会館にもそういう施設がありました。

次に会議室ですが、さまざまな会議、集会に利用し、西出張所の会議室も兼用するという考え方です。これは貸し館という形になるかと思えます。あと、内野コミ協事務室を設置して、コミ協の会議やちょっとした打ち合わせもできるようなスペースを想定しています。

その他に、利用団体のロッカースペースとして、団体の用品等を収納するスペースを考えております。

出張所については、今の状況を踏まえて、不足している部分などを踏まえた中で、大まかなボリュームとしてこれぐらいかなというものになっています。

次に、2階につきましては、集会施設と保育室、プレールーム、和室、それから西地域保健福祉センターを配置しました。保育室は、健診時子育てサークルの教室等の利用時を想定しています。プレールームと直接行き来でき、授乳室、幼児トイレを配置する形になるかと思えます。その脇にプレールームを配置して、サークルや教室等の利用を想定しています。サークル等の利用は有料かどうか、他の施設も確認いたします。

その他、和室を地域の茶の間として、高齢者がゆっくり過ごせる場として考えています。その他、お茶や生け花などのサークルにも使えるような貸し館スペースを想定しています。

次に、3階は集会施設としてホールを、今までの議論を踏まえて、集会や会議、講演、説明会、研修会、踊りや演奏、演劇の練習・発表の場、ダンス、体操などの健康づくり、それから柔道や空手、卓球などのスポーツ、それから保健センターが大規模な健診を行う場合にも使うと考えて、多目的な利用を想定した場所になります。板間で、壁を仕切って最高で3部屋に分けて利用でき、可動式のステージも想定しています。音楽会だけでなく運動にも使うものとして、防音設備や壁に鏡を設けて、踊りやダンスにも使えるように考えています。

階高は、天井を少し高めになりたいと考えており、規模は西コミセンより少し大きめな感じですか。人数は椅子をきっちり並べると、350人ぐらい入るスペースになるかと思えます。

その他に、ロビーとして、待ち合わせ及び休憩のスペースと、研修室として、各種研修、講座、会議、サークル関係、仕切りを外すと調理台が2セット置けるスペースになっており、仕切りを外せば研修室と一体的に利用できます。

その他、音楽室、ピアノの練習やコーラス、楽器の練習、発表の場にも使えるものです。

ミーティングスペースとして、会議室等の集中軽減のため、ミーティングできるスペースに机・椅子を配置して、2人の打ち合わせから少し大人数の打ち合わせまでできるかなと考えています。

その他、収納スペースとして、机や椅子を収納する場所を2つ設けています。

施設内容はこんな形ですが、もう1つの案としてお配りしたものは、今の案では、公共施設と同じフロアに混在し、土日などの閉庁日に片方は使っていて、片方は閉まっているというのはあまりいい感じでなく、またセキュリティの関係もあり、さらにバリアフリーの関係で、保健福祉センターは平場という考え方もあり、これらを踏まえて公共施設を1階に集中させ、2階以上を集会施設にした形にしたものです。そうすると、真ん中に階段室やトイレを集中させることができ、廊下などをあまりとらずに共用スペースが稼げるという部分があります。そのように配置するとこんなイメージになりますというのがこちらでございます。

施設全体は、若干塔屋みたいなものが出るかもしれませんが、基本的には3階建てということで予定しました。これは、敷地はこの場所というのを全く想定しておりませんので、イメージをつかんでいただく、仮想の図面としてご理解いただきたいと思います。

以上で、簡単ですが説明を終わらせていただきます。

(岡本会長)

ありがとうございました。今、2つの説明が、はじめの方を説明A、あとの方を説明Bという感じでいきましょうか。

今、事務局からA、B、2つ説明がございました。大きい相違は、Aは、出張所と保健センターが別々の階にあること、Bは、それを1階に全部集約をしましたというところが大きな違いです。会議室やホール、プレールームなどはそれぞれありますが、大きい違いは、出張所、いわゆる行政が入るところを1つに集約して、セキュリティやバリアフリー等の関係で1階にもってきたと。そうすると、土日休みには2階以上はオープンに使われる。ところが、Aでは、1階も2階も閉まっているところと開いているところがあるという。出張所を2階にもってくると、一般の人が2階まで行かなきゃ駄目だということになる。それで、1階に行政施設をもってきたと、こういう感じですね。

(事務局：小林地域課長補佐)

はい。

(岡本会長)

そういうことだそうです。それで、私どもが今まで議論してきたのは、集会所のホールや学習室、研修室なども全部配置しているみたいですが、これらの配置等々について、皆さんご意見をご自由に出していただきたいと思います。

(大川委員)

これはこれでいいと思うんですけども、あまり内野の振興、内野町にシンボリックなものを造りたいと思うときに、これだとシンボリックな感じじゃなくて、どこにでもある集会施設なので、これに、もう1階上にちゃんとしたホールが欲しいんですが。この多目的ホールはホールでいいんですけど、例えば1階にあって、2階にあって、この3階、4階ぐらいに大きなホールがあって、5階に今の3階ぐらいのものがあると、何かあったときに、防災施設や何かに講座室などがなりそうなので、こういうのも、これにもう1つ何か大きなこの多目的ホール、今までこういうふうに話してたんですけども、この多目的ホールはこれで、こういうように……。結局、この多目的ホールって、ここのもう少し大きくなったものですよ。そんな感じになるわけですよ。

(岡本会長)

ここは何名ぐらい入るの。

(大川委員)

いえ、人数はともかく、雰囲気として、舞台があって、こんなような、これがもう少し大きくなったぐらいの、私たち、結局そんなような感じのものが出来上がるっていう。

(事務局：市川地域課長)

ここで100ちょっとですから。ここの倍以上。

(大川委員)

だから、これがもう少し大きくなった。

(横山委員)

雰囲気ってことですか。

(大川委員)

そう。イメージ的に雰囲気がこういうのじゃなくて、すごい立派なのっていうのも何ですけど、でも、これじゃちょっとイメージが違うんですよ。もちろんこういうのもあっていいんですけど、この他にまだ何か欲しいというか。

ちょっとこれだと、シンボリックというか、内野町を活性化するというか、そういうのに、これだとインパクトがなくて、造ったら、これから30年ぐらいは残るものですよ。ともすれば50年ってなったときに、貧弱って言っちゃ申し訳ないんですけども、そのような

ものを造って残すよりは、もっと立派と言っちゃ変ですけど、もったきちっとしたものが欲しいかなという印象を受けました。

(小林委員)

いいですか。どこにターゲットを絞るかは、乳幼児からお年寄りまでの幅広い年齢層でターゲットを絞っているわけではなく、分散で吟味されてると思うんですけど。自分が中学校の保護者として関わらせていただいている中で、内野小学校は「THE☆ピース」という有名なブラスバンドが大活躍していて、内野中学校では、今まで文化祭に合唱コンクールを体育館でやったんですけども、それを来年度からりゅーとぴあでやることになりましたので、できればそういった小中学校の生徒たちが、せっきやく地元で活躍されてるものを、外に出して披露ではなく、できれば地元で披露する場所があるといいなというのは思いました。ただ、人数的に中学は630名、来年は600名ぐらいで、その人数が入るのは厳しいと思いますけど、せっきやく小学校では「THE☆ピース」というブラスバンドで、中学では、内野中学校の合唱が全国大会にも行ったぐらいなので、そういうものが活躍できる場所が地元があればいいというのはずっと思っておりました。

(横山委員)

今、小林さんのお話を伺って、はっと思ったんですけど、今までこのホールの人数とか、何席必要かとか、そんな話をしていましたが、確かに内野小、内野中は、新潟市の中でも比較的児童数・生徒数の多い学校なので、それを基準に考えると、今の案というか、今まで自分の考えたものだと、ちょっと小さすぎるという感覚があって、例えば、中学校の子どもたちとか、小学校の子どもたちがみんな何か見に来たりとなったときに、何割しか入らない。大人は入れない。子どもも1割しか入れないようなものだと、ちょっと残念かなと。それは合わないというか、ちょっと足りないのかなという感じがしました。

(元木委員)

コンサートホール的なものがあればいいと思うんですけど、いくら公共交通機関を利用してくださいとは言っても、この車社会で、大きな立派なコンサートホールに見合う駐車場が心配なのが一つと、私はこの案を見て、まちの情報コーナーというのがあるんですけど、ここの部分をもっと拡張して、内野っていうものをすごくアピールできる、例えばお酒ならお酒の小さな博物館じゃないですけど、スペースは小さくてもいいと思いますけど、中央公民館、クロスパルに行ったときに、前の小学校の歴史の、校長室みたいなのがあって、すごく印象が深かったんですけど、スペースは大きくなくても、そこを見れば内野の歴史がわかるような、こんな廊下にちょっとというのではなく、私はこれを見たときに、そこはもっと内野を前面に出せるものが、廊下の一角でなく、ちょっとセンスのいいスペースがあればいい

なと思いました。

(渡辺委員)

まちの商売やっている人間の意見として聞いていただいたほうがいいと思うんですけど、まちなかに集会所の施設を造っていただくのはすごくありがたいことで、ただ、僕らにとっては、そこは機能的なものというよりも、シンボリックなイメージのほうがものすごく強くなったほうが、まちの活性化にはつながると思うんです。要するに、プラネタリウムがあるみたいな、そんな感覚でもいいんですよ。要するに、あそこに行けばみんながわかるという、何かしらそういうイメージを持ったものを造ってほしいというのが一つと、あと、みんなが、誰もが集まれる場所、子どもが1階で遊んでいて、お父さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも1階でお茶飲んでいてというような施設には、今、ポンチ絵ではなっていないのかなというイメージがあって、大ききうんぬんはまた別なんだと思うんですけど、そこが、自分たちが思っていたイメージとちょっと違うのかなという感覚はあります。

(道上委員)

私は、地元の方のイメージの違いも尊重なさったらいいと思うんですけど、小林課長補佐の描かれたポンチ絵と、今日冒頭に、会長がまとめをされたものと大体合っているような感じがするんですよ。今まで割と細かい議論をしていたので、そういう面ではこれは出されているのかなと思うんですけど、規模でずれがあるというのは、ちょっとえっと思ったんですけど。今、小中学校用の大人数が入れるのが欲しいのだということですよね。使うその頻度とのバランスなどということもあるのかなという気がします。もちろん内野のシンボリックなもの、内野町の特色を生かしたもののスペースというのはあったほうがいいと思うので、元木さんがおっしゃったように、まちの情報コーナーとかのスペースを空いたスペースだけで造るのではなく、もう少し中身も含めて拡充したらどうかなというのが、私の立場です。

(岡本会長)

いろいろ出ました。スペース的には、でかい発表会、演奏できるりゅーとぴあみたいなのがあれば一番いいんだろうけど、それだとまた集会所的な発想と若干違う要素を持って、目的も違うし、今、小中学、特に中学はりゅーとぴあを利用して、あちこちの中学はもうはや1年でりゅーとぴあの会場を取りに、埋まってしまうという。

私も孫がりゅーとぴあで中学校の発表会をやっていますが、すごいんですよ。だから、生徒が600人もいると、親がまた600人、2人行く親もあるから、だからりゅーとぴあでなければできないという。あれを内野に造れと言っても、これはその議論と私どもの、あれば一番いいのだけでも、それはそれとして、それが生徒全員行かなくても、内野の中学、あるいは小学校が全国的にもブラスバンド有名ですから、それが地元で発表できて、そして見に行

ける人がいると。そうすると、この 300 ぐらいですかね。西コミセンと同じぐらいの規模というふうに認識すればいいのだね。

(事務局：小林地域課長補佐)

一回り大きい。

(岡本会長)

それよりも大きいのですか。そこに舞台装置、音響効果を、万全なやつは要らないと思うが…、というのがあれば、大体満たされるかなという感じですかね。

それと、大学も近くですが、みんな新潟の舞台借りているのではないですか。黒埼にも行っていますが、内野がないから、内野でほとんど手を挙げてないのですよ。それができれば、内野で大学サークルなどと地域が密着できる。小学校の発表会もできることになると思うが、この集会施設について、いま一つは、もう 1 階上げれやと。

(元木委員)

それは私も思っている。

(大川委員)

そうそう。3 階じゃちょっと低いと思う。

(元木委員)

防災の関係で。

(岡本会長)

防災ビルとなると、これもせっかく造るのだから、そこまで眺めてみるのも必要なのだろうと思いますけれども。もう 1 階上げて、いざ災害のときにそこが司令室になったり、あるいは避難所になったりという意識からすれば、それなりにまた理屈づけがあると思う。

という議論を進めていくと、コンセプトを集会所というか、今回、我々は集会施設をどうしてもらおうという議論から、保健センターや出張所の行政施設が合併したのだから、いろいろ見る角度が違ってきているのだけれども、そこにどうせ造るのであれば防災対応もこれから考えるべきだと、これも十分考える必要性があるんですよ。

昨年 6 月に県が発表した日本海に 6 本の地震帯が走っていて、そこで 7.5 から 8 ぐらいのマグニチュードの地震が発生すると、5 分で西海岸に来て、予想図からいくと、一番早いのは内野なんですよ。今年の 3 月頃もう 1 回出ると思うけれども、新川をさかのぼって 17～18m の津波がくると。そうなると、内野は全滅するんです。もう一本は西海岸で、関屋分水から入ってきて、それも内野の田んぼが一番地域で低いものだから、両方から攻められるようなイメージを発表されたのだけど、それに対応し得る防災設備は今回とは別個だという位置づけ、又はせっかく造るのだからそこに入れるという議論の 2 つあると思うんですよ。

りゅーとぴあみたいな施設、それから防災の施設、それが全部あれば一番いいんだけど、そこまでできるのか。今は、私どもが欲している集会施設に演奏できるスペース、子育ての部屋、さらに今ばらばらになっている出張所、保健センターを合築したものをやってみようかという、3つに分かれると思うんだけど、どうでしょうか。

(小林委員)

先ほどのりゅーとぴあの話は、私の言いたい原点が、内野の人たちはせっかくいいものを持っているのに、それを外で発表することがすごく多い。内野のまちを活性化しようと、町内の人たちも頑張っている割には、みんなそれが外に行ってしまうのが現実問題です。だから、元木さんがおっしゃったように、内野町の情報コーナー、集えるものも、さっきおっしゃったように協力という意味でも、その中での一つの案として、小学校もプラスだとか、中学校の合唱の子たちが活躍されているのであれば、それを発表する場所というか、人を呼ぶところにちょっと意識を持ったらいかがかなと思ったんですけど。

(岡本会長)

私もそれ、ものすごく感じるんですよ。せっかくのブラスバンドを町内の人に披露する場所がないんですよ。あるのは小学校の体育館ぐらいのもので。

(小林委員)

内野まつりとか。

(岡本会長)

内野まつりで練り歩くぐらいのもので、発表するのだというのがなくて、「ああ、その設備があったほうがいいかな」というのは、前から感じていたけれども。どうですか、この上に上げて、震災対応、そこまでの要望というか。

(大川委員)

要望はあります。3階じゃ絶対に低いと思うんですね。とりあえず何かしたときに。

(事務局：小林地域課長補佐)

3階につきましては、まず黒崎市民会館を見て、図面を見ますと、グラウンドレベルから1mぐらい上がったところから1階の床があって、そこから4.7m上がったところに2階の床があって、そこからまた4.3m上がったところが3階になるということで、全部で10mぐらい上になる。その他に、場所を仮に西出張所の辺りとした場合は、海拔3.3mあるということで、3階全部入れても13mぐらい。

(大川委員)

でも、一応水は浸かるということですよ。ジャーンと水は来るということです。

(事務局：小林地域課長補佐)

それが、浸水想定図だと水が来ないような図面が出ている。でも、それは当然想定でしかないのです、どんなものが来るかというのはあるかと思います。そういう意味では、だから安全とはとても言えないのですけれども、ただ、そういう意味では13mぐらい。

(岡本会長)

予想としてはこの3階にこの広場があれば、その機能は果たせるという感じなんだな。

(事務局：市川地域課長)

はい。

(大川委員)

17～18、20mが来たら。

(岡本会長)

20mって、波が20mで水がそこからずーっとなるから、どれくらい来るかわからんけども、低いわけですよ。

(大川委員)

内野町に入ってくれば少しは減るでしょうけど、両脇が谷ですからね、新川は。

(渡辺委員)

そうですね。さかのぼってくるころはね。

(大川委員)

さかのぼってくるときには結構な高さ、そこそこの高さでは入ってきそうな。

(渡辺委員)

ただちょっと、僕すごくイメージ的に、A案のほうの1階と2階の機能を1階にまとめることってできないですか。

(事務局：市川地域課長)

倍の1階の面積が要ということですよ。

(渡辺委員)

そうですね。でも、いろんな端折れるものは端折ればいいのですが、1階に交流スペースとまちの情報コーナーは絶対要と思うのですよ。そうじゃないと人集まらない。出張所と保健センターは1階にあるべきだと思うのですよ。でも、プレールームと保育室は1階に欲しいでしょ。お母さん方の意見としては多分そうだと思うのですよ。それを考えると、このA案の1階と2階を併せたのが1階であれば、一番ベターだと思うのですよ。それで3階建てを造るっていうのであれば、多分皆さんはご納得いただける大きさじゃないのかなと。

(岡本会長)

用地の面積がすごい。

(渡辺委員)

いえ、ただこれをどれぐらいの用地面積で見られているかがわからないので。

(岡本会長)

まず、ここを固めてから、この次あたりに、これだけのものはどこに場所があるのかと…。

(渡辺委員)

そういうことですね。

ただ、会議室、学習室というのは上に上げてもいい。コミ協の事務局も上に上げてもいい。情報コーナーと交流スペースと出張所と保健センター、プレールームと保育室、これがまず1階にあるべきじゃないですかね。子どものこと、住民のこと、まちの人間のことを考えたのをまず1階に持ってきて、あとのものは上という感覚は駄目ですかね。

(岡本会長)

説明Bのところ的交流スペースを造れと。そこへプラスと、こういう意見なんだな。

(渡辺委員)

はい。

交流スペースをちゃんとした部分で取っていただければ、一番いいのではないのかなと。それで、あと細かいところは、やっぱり欲しいものはあるでしょうから、それを入れていくという形のほうが、筋道としては通るのかなと思いますけど。

(岡本会長)

ネーブルみつけもああいうふうに1階にもってきたから、地域の人たちが全部そこへ…。

(渡辺委員)

僕もそう思います。

(岡本会長)

今、区役所でも分館を改築するのだけでも、そのときもその議論が出て、市民が集ってこられるスペースを1階にとにかく造ってくれというのが出て、半分ぐらいそこに使用することになった。みんなそう言うんです。

(渡辺委員)

そうですね。

(岡本会長)

それだと、地域のじいちゃんも、子どもも、消防団も全部来て。ところが、小林補佐から話があったように、行政機能が2つ1階にあって、そこは休日、土日だと閉めてしまうと。そうすると、この中へ入れられないから、じゃあ、ここへ付け足したような話になると、ものすごいスペース、大きくなるというのがまた一つ悩みあるんですね。

(渡辺委員)

そこは考えていただいてですよね。

(岡本会長)

そうすると、説明Aというのは、保健センターが2階に行っているわけですよね。ここにもう少し市民交流センターというものを拡充すると。

(渡辺委員)

敷地ですよね、やっぱりね。

(元木委員)

敷地があるのかな。

(岡本会長)

いずれにせよ、こういう機能で我々が、さっき議論があった、防災施設をイメージをして、この際だからきっちりという考え方もあるわけです。そうすると、今の説明だと、13~14mあるからこれでも防災はかろうじて機能するのではないかという説明だね、この広場がね。

(事務局：小林地域課長補佐)

そうですね。

(渡辺委員)

3階の高さだけ上げるということは、多分設計上どうにでもなるような気はしないでもないですけどね。

(岡本会長)

3階にするか、4階にするかというのは思い切り違うもんな。

(渡辺委員)

でも、3階建てだって、今13mって言うけど、それを14mにすることは設計上可能ですよ。

(事務局：小林地域課長補佐)

設計上は可能ですが、建築費は当然高くなります。

(渡辺委員)

その話は今ここで議論すべきじゃないような気はしますけど。

(事務局：小林地域課長補佐)

一つの考え方として、2階に集会施設を持ってくるというのものもあるかもしれません。

(渡辺委員)

集会施設は別に3階でもいいですが、ただ、3階で13mを15mにするのは可能なのかと。それなら3階でもいいという意見になるかもしれないし、4階はやっぱり欲しいという意見

になるかもしれませんが、高さだけの話ならば、3階でも15mはできるという話ですよ。それを4階にしたほうが安く上がるのだったら、4階にすればいいという意見ですよ。

(岡本会長)

今までずっと議論してきたような、いわゆる人が気軽に集まるスペースが欲しいというのを今までに出した。それから人づくりの施設が欲しいと。それからまちづくりの施設が欲しいと。この3つをきちっといくと、やっぱり一番大事なまちの人たちが気軽に集まる場所という、やっぱり1階に行っちゃうんだよな。

(渡辺委員)

そうですね。変に敷居を高くすると、正直、集会施設を造っても、人が集まるのかというレベルになっちゃいますので…。

(岡本会長)

行政施設が土日・休日が休みで、そこをシャットアウトするのだから、面倒だわな。

(事務局：小林地域課長補佐)

個人情報満載の施設なので、そういう意味では、開いているところと閉まっているところが一緒というのは、うまくないかなと。

(岡本会長)

このA案でそっくり2階にして、2階だけセキュリティきちんとして、他のところは全部自由にとという考え方はやっぱり持たないんだな。

(事務局：小林地域課長補佐)

同じような形で1階と2階を入れ替えるというのはできるかもしれないですけども。

(岡本会長)

行政施設を1階と2階に置くと。

(事務局：小林地域課長補佐)

はい。そういうことです。

(岡本会長)

そして、市民センターを1階のほうにほとんど持ってくると。出張所が2階ってわけにいかないわな。どうなんだろう。

(事務局：市川地域課長)

出張所は1階なのでしょうね。さっきも言ったセキュリティの面は実際問題、東区プラザもやっているの、やり方によってはできるのかもしれないけれども、行政的なものについては1階にもってきたほうが理想的じゃないかということで、それをいろいろ話の中でもやっていけばいいだろうし、例えばさっき言われたような交流スペースとかが必要であれば、

どこか縮めるなり、何かしないとね。要はスペースが、床面積が広がる、その分だけ駐車場の問題とかにも影響してくるので、逆にいい提案をいただいて、検討してするしかないかと。

(岡本会長)

やっぱり、言われるように、市民センターみたいのはやっぱり1階なんだな。

(事務局：小林地域課長補佐)

出張所とかに来られた方が気軽に行けるとか、公共施設に来た人も施設を利用できると。

(渡辺委員)

利用頻度の問題だと思うのですね。頻度が一番高いのは絶対出張所なわけだから、出張所は1階にあるべき。保健センターも利用頻度が高いわけだから、1階にあるべき。市民交流スペースも利用頻度が高くするべきなのだから、1階にあるべき。要するに、利用頻度の順番で下から埋めていくという話にはなるのではないですか。

(岡本会長)

土足で気軽に行けるということ、そういうものが内野にないのですよ。それと大事な視点は、音楽の発表会、要するにブラスバンドの発表会みたいなものの設備がほとんどないというところなんですよね。あとは、学習、いわゆる人づくりのものをどこへどう当てはめていくかということだと思うのですよね。

(事務局：市川地域課長)

とりあえず、皆さんが言ったそのものについては、この案の中にはとりあえずは入っているという前提でいいですよ。ただ、その組み合わせの中でどうするかというのが今議論になっている形なのだけど。

(岡本会長)

ただ、この集会、多目的ホール、これがもっとグレード高く、本格的な舞台じゃないけども、そういった設備のあるものが欲しいという感じなんでないのかな。

(大川委員)

そうですね。これがもうちょっと広がったようなイメージじゃ、雰囲気としては、これじゃあ、ちょっと。

(岡本会長)

普段、可動の椅子が250出てくる。それで舞台があつて。東区のホールみたいなもの。

(事務局：市川地域課長)

舞台も大きいですね。

(岡本会長)

大きいわね。あれよりもこれ広いんでしょ。今これは。

(事務局：市川地域課長)

この多目的ホールは狭いでしょ、東区よりも。

(岡本会長)

狭いかね。

(事務局：市川地域課長)

東区は 300 で黒崎市民会館と同じぐらいの大きさですからね。

生涯学習センターのほうは。

(岡本会長)

あれは小さい。東区は 250 位でなかったかな。

(元木委員)

東区は 300 です。

(事務局：小林地域課長補佐)

280 ですね。200 席の可動に、あと 80。

(横山委員)

この試案を見て、私たちの意見、会長もさっきまとめたものが全部入っていて、決して間違っているわけじゃないのですが、多分これを見た全員の委員が、確かに自分たちが言ったことが全部ちゃんと網羅されて入っているのだけでも、何かちょっと違ったなというのが多分正直なところで、さっき渡辺さんが言った、スペースに関してもしっかり全員一致でうんうんと思うのです。決して文句を付けて…、上手に作っていただいて、おおと思うのですが、要は自分たちの今までの意見がちょっと足りなかったというか、もっと考えるべきだったのに、やっぱりこうやって図面を見せていただいて、さらに考えることがあったなと思うところだと思うのですけど。

私の考えとして、さっき渡辺さんが言った、配置について全く同じで、今じゃなくてこれから先のことを考えたりしていきたいと私はすごく思うので、これを見ると、90 年代後半に造られたものと変わらない。今、2013 年、これから使うであろう 30 年間で想定して造るのだから、そういうものを造りたいと。別に内野に最先端のものが欲しいとか、中身がどうかではなくて、これからも時代が変わっていく中で、私たちが、そこにいる地域の住民が、形とか年代とかメンバーが替わっても、相変わらずうまく使っていけるような、現代における先を見越した新しいものが欲しいなと感じたので、もう 1 回この図面を見た中で、さらにみんなでこうしたいね、ああしたいねというのをもう 1 回出したいなと思いました。限られたスペースとか、予算的なものもあるのも重々承知なのですが、みんなでもう 1 回また話がしたいなと思いました。

(渡辺委員)

すごくいい図案だと思います。ただ、工夫をしてもらえればそれでいいという感覚だと、僕は思っています。僕らが今言った意見を、予算なり、敷地なりのことで、工夫してもらって配置していただけるかという、期待感を込めてしまうのです。

(事務局：小林地域課長補佐)

最終的には設計業者が線を引くと、本当に素晴らしいものが出てくると思うんですけども。

(岡本会長)

率直に言って、4階建てというのはもう考える余地はないんだな。

(事務局：市川地域課長)

4階ね…。

(岡本会長)

そうすると黒埼よりも大きくなるし、今度は財政にも、「内野は1万6,000人のところへ4階か」なんていう話、必ずあるから、議会へ行って議論するとね。それはなるのだけでも。想定の余地があるかどうか。

(事務局：市川地域課長)

規模なのでしょうね。

(岡本会長)

規模なんだろうな、やっぱり。

(事務局：市川地域課長)

例えば、1,000平米の床のところ、4,000のものを造るのか、小さくしてこうするのか、いろいろあると思いますが、そのところだと思います。逆にあまり小さくするのも。

(事務局：石塚西出張所所長)

皆さんが今おっしゃっている中でいけば、このAもBも、大体皆さんがおっしゃっているものが入っているので、まずまずなのだけでも、じゃあ、ここに4階建てにしたときに4階に何を入れるかという話がないのですよね。それを教えていただくと。例えば交流スペースを広げると言うけれども、交流スペースをどんなに広げたって4階にはならないのです。1フロア分にはならないので、その辺を教えてくださいからだと思いますね。

(横山委員)

みんなで話し合っていないので、一人一人違うと思うんですけど、私がパッと見たときに、AもBもフリススペースがすごく少なくて、密集しているなという印象を受けたんです。なので、4階に新たに何かものを造るのでなくて、もう少し全体的にスペース、要はミーティングスペースとかロビー的なものをもう少し広く取って、4階に配置、4階までをもう少し使

いたいなというふうに思いました。

(大川委員)

私は多目的ホールが、4階というか、上にボンと。もう下までに多目的ホールみたいな、こういうスペースとかそういうのがみんなあって、上にはもうホールのみ。大きい300人のホールが上に最後に乗るという感じ。

(渡辺委員)

分庁舎なくなるじゃないですか。僕、全然頭の中になかったのですが、柔道やっている人から「柔道場なくなるよね」と言われたのですよね。今、分庁舎には柔道場があるのですが、「じゃあ、どこかのスペースに畳だけ敷けばいいですか」という話をしたら、「それは駄目」って言われて、「何ですか」と言ったら、畳を敷き直したりするっていうのは柔道では厳禁なんですって。隙間ができたりとかして危なくなってしまうので、絶対敷きっぱなしのところでは柔道はできないと言われて、全然頭の中に入ってなかったと思って。

(元木委員)

1つ増やしてほしいですね、柔道場を。

(大川委員)

多目的ホールの辺りを、柔道と、だから、武道場のあるような雰囲気にして、また、何て言うんですか、上にコンサートホールと言ったら大げさですけど、何かできる、発表する場をこの上に乗せるっていうので、4階。

(渡辺委員)

今ある施設は全部あってほしいなというのがやっぱり、せっかく造るのであれば、これは新しいところにはないよというのはちょっと、困る人が絶対出ると思うので、結局それはいけないのではないのかと。ここで一応議論している以上は、今、内野にある施設は全部あったほうがいいのかという感覚でものを…。

(元木委員)

柔道場は広くなくて、今のあそこの、今のあの広さでもいいですね。

(渡辺委員)

今ある、全然構わないらしいです。

(岡本会長)

中学には柔道場は。

(渡辺委員)

あります。中学はあります。

(岡本会長)

あれは、夜開放しないのか。

(渡辺委員)

しないです。

(岡本会長)

すればいいんだよな。

(渡辺委員)

剣道、柔道場は開放しないらしいです。

(岡本会長)

そうなんだよな。柔道場の床が傷んでいるので修繕してくれと、したんだろうかな。それで、あそこは柔道って 365 日やっているんでないんだよな、内野の町の人も。1 カ月に 2、3 回だろ。

(渡辺委員)

柔道場は毎週 3 回か。

(岡本会長)

中学に行ってやるとか、中学のところを充実するとかという手もあるわけだよな。

(渡辺委員)

代替案としてもし作られるのであれば。

(岡本会長)

作られるのであればね。けども、ここにあれば一番、今あるやつがなくなるのだから。

(渡辺委員)

そういうことですね。

(岡本会長)

そのやつをきちっと盛ってやるというのは、大前提だな。

(渡辺委員)

はい。それは本当に言われたので。

(大川委員)

でも、それ言うと、剣道場も結局なくて、あっちこっちの人のうちが剣道場が作ってくれて、武道場なるのでやっていますよね。一時期強かったけど、今はまた。練習する場も、小学校の体育館借りてやっている感じでして。

(渡辺委員)

そうですね、あとは至学館かですね。

(大川委員)

練習量が足りないから、どこかのそういう場所に出向いているという。

(岡本会長)

そこまで議論行くと、今既に西川町に造っているような、総合体育館なるもので。

(大川委員)

そうじゃあ。だからそこまではね。

(岡本会長)

体育館、ものすごいのができたでしょ、あれ、十何億も出して。それが黒埼にもあるんですよ。内野だけないのだからまいてしまうんだ。だから、こういう話は全部出てきて、この際だからという感じになっちゃうんだけども、それは内野にないというのはやっぱり不公平なんだよな。

(大川委員)

そうですね、内野が弱いというのはそこにあると言われてたりもして。でも、そこまでいなくても、せつかく今、強いというか。

(渡辺委員)

出張所長がそう言ってくださってのので、4階に何を造ったらいいのですかと言われてたら、いろんなものが多分入れ込んじゃえという話になっちゃいますので。

(大川委員)

そうなんです。入れたいものはいっぱいあります。

(事務局：石塚西出張所所長)

話がちょっと違うけども、ただ、今話が出ているように、このまま4階にしようって言われても、我々としては何をに入れていいかわからないから、その中で、今出てきた例えば柔道場だとか。あと、建物として、どこになるのかわからないけども、土地の用途や何かで制限がかからなければ4階建ては造れるだろうし。

(岡本会長)

4階建ての建物って内野にないだろう。山から見ると一番高いのは第四銀行と。

(渡辺委員)

信組ですね。

(岡本会長)

4階というのは考えられないのか。4階だったら、スペースがあればその下を伸ばせやと。

(事務局：小林地域課長補佐)

1階を広げて、また上も上げてというのは、どうか。

(渡辺委員)

総4階じゃなくてもいいわけです。

(大川委員)

ただ、避難場所となり得るものが上にあったほうがいいということですよ。とにかくみんな駆け込めるような場所があるといいなということで、4階辺りに大きな広場的ものを。

(元木委員)

屋上みたいな感じで。

(事務局：市川地域課長)

屋上があればね。でも浸水しないのですよね、地図からいうと。ちょうど内野の辺りは。

(渡辺委員)

もしあそこに造るのであれば、山が背中にありますからね。

(事務局：市川地域課長)

仮に内野駅辺りからいくと、見えないかもしれないけども、ちょうどこちら辺なのです。全然ないところなんです。それ以外のところについては色がついていて、みんな浸水しますが、これの県のほうの津波のほうに…。

(岡本会長)

それいつ出したやつだい。去年の6月以下なんて、想定初めて発表したのは。3月もう一遍やるので。

(大川委員)

まだ出てないんじゃないの。

(岡本会長)

そうすると、今までよりももっと浸水区域が広がるといわれているんですよ。

(大川委員)

浸水しなくても、一番初めに来るのが、いつまでも水がそこにあるということは内野町にはないと思うのだけど、来るときにはジャバーッと来るのではないのかなと思うんですよ。そのうち、みんな田んぼのほうにはけていってしまうけれども、まず一番初め来るんじゃないのかな。

(渡辺委員)

そうでしょうね。平場に行くでしょうね。

(大川委員)

平場に行くでしょうけど、まず、1回目来的时候に一緒になってその波とともにドーンと田んぼまで行かれちゃったら嫌だよ。

(岡本会長)

これ去年受けたやつの後で作ったものだな。

(事務局：市川地域課長)

後のものでしょうかね。

(大川委員)

内野ひまわりは、内野小学校に今作っている。

(岡本会長)

これがグーッと押し寄せてきてから、全部こっちへ流れるという想定なんだな。

(事務局：市川地域課長)

4階も例えば、このものの部分で小さくして、こうすれば4階かなうでしょうね。

(岡本会長)

浜松に視察に行ったら、3階にして、4階を避難部分にしてあるのですよ。あの方法はいい。4階は柱かなんかシートにして、ここに避難するのだという、区役所を3階建てで4階を避難場所に指定して、最初の設計からそうやっている。これもいい方法だなと思った。

(事務局：市川地域課長)

部屋でなくて、何かで仕切るようにするってことですか。

(岡本会長)

何かやるんですよ。そして、食料倉庫とかが4階に、機械室のところに置いてあったな。方法論はいろいろあるんですよ。

(事務局：市川地域課長)

避難的な場所を4階に設けるといふことであれば、会長が言われたように、何か考えられるかもしれませんね。

(岡本会長)

ただ、浜松辺りは山がないんですよ。内野の場合はすぐそこに砂丘地があって、小学校に避難場所があるから。

(渡辺委員)

一時避難なのですね。

(岡本会長)

一時避難なんですよ。

(大川委員)

一時避難する。とにかく、まずその高いところについていう、そこが欲しい。

(横山委員)

私が言った、さっきの広いスペースというのも、例えばそのロビーみたいな、ああいう

のがいっぱいあれば、いざというときそこに人が避難できるかなと。

(岡本会長)

この説明したB案の保健センターを2階へもってきて、この案の2階にあるものを1階へもって行って、そうすると、まちづくりセンターみたいのも1階にもって行って、誰でもいけるとい、ワンフロアになって行けるとい、そういう発想なのだと思うのですよね。そうすると、行政施設が1階と2階で、セキュリティには変勝手が悪いのだろうなという感じはするんですよね。

(事務局：市川地域課長)

問題はセキュリティだけなのですよね。

(大川委員)

横山さんから今ひまわりのことがあったのですが、とりあえず小学校に作っているのは半分というか、全部移転ではなくて、半分分庁舎に残って、でも全部向こうに行かれる予定になっていますか。

(事務局：市川地域課長)

将来的には向こうですね。

(大川委員)

将来的には向こうで。完全に向こうに行かれる、大丈夫なんですね。

(事務局：小林地域課長補佐)

はい。

(大川委員)

大丈夫そうだっていうのは聞いてあるのですが、確実に大丈夫なのは大丈夫？

(岡本会長)

亀田にあったものをこっちへもってくるんですよ。それを小学校の敷地にもってくる。105名いるから、45名が残るからそれをどうするかとやっていたら、市長が「全部もっていけや、一緒に」と。それで、工事が始まんわけだ。「何で始まらないんだ」と言ったら、「全部一緒にもっていく方向で検討しているんだ」というふうに聞いているんだけどね。ただし、それが予算が付いてなかったもんだから、75名なら75名だけ、亀田にあるのももってくるという予算だけだから、予算的にもっと足して全部行けるようにというのが、それが1年遅れるか、同時にやるかというところに今までもめている。いずれにせよ、この1年。

(事務局：市川地域課長)

75人分については、もう予算をもっている。残りのものは来年以降でという話。

(岡本会長)

今、ものがないものだから、75名はそれを持って行けという予算しかついてない。ところが、一遍にもっていけという、新しいがないのだから、作り出さんと駄目なんです、プレハブ。その予算がないという感じなんです。だからそれは次年度にもっていくという。一遍にできないかというのは検討に入ったとか入らんとかといって、工事が遅れてます。いずれにせよ全部行きますと。75名は確実に4月の新しい子どもたちが入れるようにしますという感じなんです。

(大川委員)

じゃあ大丈夫なわけですね。

(岡本会長)

ただ、それも暫定だからね。きちっとしたものを、プレハブなんだから。

(事務局：市川地域課長)

プレハブも今いいものですからね。プレハブらしくないような。

(岡本会長)

いいのだからね。だから、問題はこれなんです。これなんで、みんな期待をしております。それで、あと時間がなくなったので、いろいろ議論したけれども、まずこういうコンセプトでこれを作らしようっていう、理屈がつかないとなかなか前へ進まないし、コンセプトってどんな考え方でこれをいくかというのを、ちょっと議論させてもらいたい。

(元木委員)

渡辺さんがおっしゃったように、誰もが利用できる。それからコンサートホールとかもすごくいいとは思いますが、本当に利用の頻度はどうなのかなとか、利用、コンサートに行く人、演奏する人っていうのは、内野の中で誰でもが常にいつも利用するっていうののバランス、活動と使用のバランスを考えると、もっと建物自体のコンセプトとしては、赤ちゃんからお年寄りまで、いつも常に生活の中で、ちょっと何かあったら利用できるというか、何て言うか、うまく言えないんですけど、ほんとに利用しやすい、身近にあるというか、そういうのが私はいいになって、敷居が低いっていうか。

(大川委員)

でも、確かに交流できる場所はもちろんあるのですが、それだけでなく、皆さんが集まるだけでなく、内野町ではそういうコンサートというか、小中学校のブラスバンドや何かとか、大学生ができる、そういう施設もあるのだよっていう、その両方が入っているといかないって思うのですよね。ただ、地域の皆さんだけのもので、なんだけれども、地域の皆さんもそのホールも利用できる。やっぱり私、いろいろ年末年始、どんなホールというので聞いたのですが、確かに稼働率も心配になるだろうけど、でも、そんなこと言っていたら

駄目なのではないのって。稼働率なんか、そしたら、出来上がったら今度どんなふうにみんなが使いやすくしていくかというのを考えればいいので、やっぱりみんながちょっと発表したいとかいうときに、使えるようなものがないといけないわけだから、まず稼働率よりもみんなが使いたいというか、これから残していてもいいようなものを造っていったほうが。もちろん交流の場がなければ駄目なのですが、もちろん交流があって、上のほうではこんなこともあるから、交流して、そのまま上に流れて、子どものお休みの日とか、どうせお休みの、平日というのはなかなかないかもしれないですけど、やっぱり使える場所もあったほうがいいかなというのは思います。

(岡本会長)

私どもが見てきたクロスパルなんていうのは、やっぱり立派だけでも、コンクリにきちっとしてしまっただけから、人が入っていかないのですよね。

(渡辺委員)

僕もそう思います。

(岡本会長)

だから、渡辺委員が言うように土足で気軽に行けるんだと、1階は。あそこ行くと人がいるから、またさらに輪かけて他の人も、おばあちゃんもおじいちゃんも行くんだというようなものも頭の中に入れて、それも1階で、年寄りに2階上がれ、3階上がれなんて駄目だから、1階に土足で気軽に入ってくるというのをまず置いて、あとは3階辺りにホールがあって、演奏もできるし、音楽も聴けるというものも欲しいと。こういう感じなのでしょうね。

そこに出張所と保健センターもきちんと入るということ、そして、生涯学習もできると。よけい言えば切りがないけども、そういった類のものなんだ。だから、ここにはほとんどのものが入ってんだけども、ちょっと品が落ちるよという感じ。それから、広さがちょっとわからんから、使い勝手がわからんから、グレードをどこまで上げていただけるのかという感じなんだと思うね。

(大川委員)

できれば包括センターも入ってくれていると、どんなに助かることかって思ったりしますが。赤塚まで行くのがちょっとあれなので。

(渡辺委員)

コンセプトだけ言えば、「みんなが集える音楽のまち」でいいと思いますけどね。

(岡本会長)

コンセプトね。コンセプトちょっと議論して。そういうことなんだろうな。

(渡辺委員)

そうですね。皆さんの意見集約するとそこになるとは思うんですけどね。

(道上委員)

内野のおまつりってというのは、1年を通して、活動がいつもおまつりのために常時人が集まったりとか、練習とか、そういうことが行われているのでしょうか。

(岡本会長)

6、7、8、9月の4カ月。これが各地域。

(道上委員)

そういうのは、自治会館で。

(大川委員)

自治会館ですね。

あとは、内野の盆踊りが、割とあそこは1年中近く、10カ月ぐらいは。

(横山委員)

5月ぐらいから練習しています。

(大川委員)

そうです。4月か5月、それぐらいですよ。が、割と。

(横山委員)

それも持ち回りでやっているんですね。

(岡本会長)

今、カラオケだとか、趣味の会。要するに公民館が98団体になって満杯なんです。そして、分庁舎も柔道だとか、太極拳だとか、子育て、これもほとんど満杯なんです。

(岡本会長)

コンセプトは、渡辺委員が今発言したような内容でいいんでないですか。どういうのを決めればいいんですか。

(事務局：市川地域課長)

音楽と言われましたけど。

(岡本会長)

みんなで集まる場所と聞こえたのだけど。

(渡辺委員)

皆さんが多目的ホールの中に演奏ができるものが欲しいという意見が多数であれば。

(事務局：小林地域課長補佐)

そのイメージが、演奏がグレード高い演奏ができるホールもあれば、学校の体育館の舞台のようなイメージもあれば、そこら辺が非常に難しいんですけど。

(岡本会長)

この施設は行政施設が一緒になって、コンセプトが面倒なんです。行政施設、だからまちづくりセンターなんです、まちづくりなんですよ。人づくりとまちづくりなんだ、これ。

(事務局：小林地域課長補佐)

一つ言えるのは、いい施設を、専用ホールみたいとなると、舞台もバトンやら、舞台と同じぐらいの面積が後ろにないと道具の入れ替えもできないとか、ものすごい施設になって、利用料も高くなるという、反比例するものがあるって、そうすると、利用する人たちや、内容が限られてくるというのがありますので、そこら辺はいい施設ができればいいのだけれども、いい施設を造ると、反面利用する範囲が狭くなってくる。

(岡本会長)

だから、クロスパルの集会所、150席あるような、あれに自動的に椅子が入るものがあれば、あの後ろに楽屋があったわけではないし、専門の放送設備があったわけでもない。この体育…、これをちょっと広くしたものよりも、向こうのほうがより立派なわけです。

(大川委員)

体育館って照明できますよね、体育館の上。できないんでしたっけ。

(小林委員)

あります。

(大川委員)

スポットできますよね。両脇に放送室みたいなのも入っていますよね。あれよりはもうちょっといいほうがいいのかな。あれ、どんなものなのでしょうね。

(横山委員)

いつも話すと、私たちと行政の間が、ホールの質とかレベルについての話になるのですが、私たちは全くイメージが、これぐらいでいくらとか、わからない人が多いと思う。できればいいものが欲しいけど、もうこれしか無理というんだったら、それでいいですという感じで。岡本会長も言っていたのですが、この施設、音楽ホールを造りたいわけではなくて、地域住民が集える、どっちかというまちづくりとか、これからの住民にとっていい施設が造りたいので、そこがおざなりになるくらいだったら、例えば照明要らない、音響も要らないってなっていくのだと思うのです。私たち話しても、大体お金がどれぐらいかかるのかもわからないので…。

(事務局：小林地域課長補佐)

その辺りを、ちょっと確認したかったなと思って。

(岡本会長)

よりグレードの高いのに近づけてくれやという話なのです。

(大川委員)

そりゃ、いいものにこしたことはないけど。

(渡辺委員)

いいものは一番いいのですけど。でも、基本は…。

(岡本会長)

どこまで許容があるかということだと思うのですよ。

(事務局：石塚西出張所所長)

そしたら、最低限どの程度だっていう話をしてくれます？ 例えば小学校の体育館のああいうステージがあって、あの形だということか、西コミセンの2階のああいうもう全くフラットで何もないのでいいのか、その辺から始めないと。

(岡本会長)

クロスパルのああいう感じの、あれは後ろに放送設備も何もないし、控え室も何もないんですよ。ただ、あそこは椅子が作り付けだから、自動的に収納できれば何でも使われるわけです。そういった感じ。

(事務局：石塚西出張所所長)

音響設備も特別必要じゃないけど、防音だけはしてほしいと。

(道上委員)

それも含めてなんですけども、ここに挙がっているものは、あらゆる機能を大体同じ同列に扱って入れているのですね。メリハリ付けて、例えばプラスバンドを応援してもってきたいというのであれば、音響は内野はすごい。他の施設もあるんだけど、他の施設のところより少し低いかもしれないけども、音響のところはこの狭い規模でもここはすごいですとか、何かちょっとメリハリを付けて、差を付けて、やることができますか。ここは大体万遍なく同じ重みで会議室もプレールームも保育室も付けてあって、その中で、子育てで出張所だとか、あるいはどこよりも内野は力を入れていますというので、そこは重点的にグレードが上がっていて、ちょっと申し訳ないですけども、お年寄りのカラオケ、囲碁とか、そういうものはちょっと普通のものになっちゃう、最低限になっちゃうけれども、他の部分はプラスバンドを応援したいのとか、合唱さん、応援したいのとか、そういうところはちょっと重点的に強化したりとか、その辺、地域の方でメリハリを付けられたらどうですか。

(小林委員)

これをもし造ったと仮定したときに、乳幼児、そのお母さんで、間ボンと抜けて、お年寄りしか利用できないような、そんなイメージしかなくて、例えばその中間ぐらいの、中高、

大学生、大学生は使うのかもしれないですけど、その先をどう…、横山さんが言われたように、やっぱり未来のことを考えたら、今の中学、高校生とか、それから青年たちが使えるものがあるのではないかなと思ったときに、何もないなというのがちょっと私の中ではあったんですけど。

たまたま、私、子どもが音楽の専門学校へ行っておまして、その学校の中を見ると、やっぱり音響施設は素晴らしいものは確かにあるんですけど、それとはまた別個に、いろんな学習施設とか、あとは教務室というのがやっぱりあるので、何となく皆さんのお話をしたときに、そこの学校の中がすごく描かれてしまったんですけど。そんな感じなのかなと思いましたけどね。こういう交流スペースとかもその学校にはありますし、その学校の宣伝物がバーツと並んでいる、掲示物がバーツと並んでいる、まちの情報コーナーじゃないですけど、そういったものもあったので、すごく一致したんですね。

(岡本会長)

今の話、沈埋トンネル越えたところの、小さな昔の出張所、改造して何とかセンターになっているね。北部コミセンというのか、あっち、東区の。

(事務局：小林地域課長補佐)

東区？

(岡本会長)

そこに今言った、小中学生がたむろできる部屋があるんですよ。つくってあるんだ。ここがものすごいっていうんだ、小中学生が来てたむろして。つくってくると来るんだわ。

(事務局：石塚西出張所所長)

前の東区役所ということですか。あそこ今、全部出ちゃったけども、まちづくりセンターつくって。

(岡本会長)

そこに小中学生が気軽にたむろできる部屋をつくってあるって。一番稼働率があるのは、そこだって言うんだよ。あの一番端っこにある。玄関入って。

(事務局：市川地域課長)

玄関入って、右側の奥の畳の場所ですね。

(事務局：小林地域課長補佐)

確かに中学生がいっぱいいますね。

(岡本会長)

そこが一番この地域の子どもがたむろする場所で、一番稼働率があるのです。だから、つくってくれば来るんだわ。

(事務局：市川地域課長)

それは交流スペースだね。

(岡本会長)

そうです。どこでも交流スペースでもどこでもできるのでね。

(横山委員)

交流スペースで、この施設って入れてしまうと、もう変えられないのですが、いろんな今こういう公共施設で、例えばカフェみたいな、オープンコーナーで、何か月かごとに人が入ったりしているところありますよね。中央図書館とかも前そうでしたよね。

いろんな全国のところにあるのですが、亀田の新しい江南のあそこにカフェが入っているじゃないですか。

(事務局：石塚西出張所所長)

ネーブルみつけもあったでしょ。どこかの施設の人たちがカフェやっていて、特にここがそうですよじゃなくて、ダーツとあるんだけど、そこからコーヒーだったらコーヒーを買って、適当に座ってやってるっていう、あれのことですか。

(横山委員)

形はどうでもいいのですが、これから先入れ代わり立ち代わりで、まさに話題を提供できるような場所というか、屋内でこういう施設内で、例えば雨が降っても広いスペースで、そういうところでいいのですが、イメージとして。盆踊りができるとか、マルシェができるとか、ちょっとずつ常にお年寄りとか若い人とか、そういうので来られるような、何かもう既存の何かを造るのではなくて、お部屋を造るのではなくて、そういうオープンスペースに例えば、書の展示ができて、この期間はやっているから来てとか、その期間…。

(渡辺委員)

オープンスペースがあれば、ソフトの面は後で考えればいいことなので、そこは。

(事務局：石塚西出張所所長)

だから、A案もB案も、交流スペースというのはそういうつもりで描いているんだわね。ただ、少し狭いのかどうか分からない。

(渡辺委員)

この面から見て、すごく狭く見えるのですよね、面積が。

(事務局：石塚西出張所所長)

だけど、結構、最初、これ結構広いんだよね。

(事務局：市川地域課長)

はい。ここくらいの面積あるのでないのかな。

(事務局：小林地域課長補佐)

黒崎市民会館のあのスペースの大きさぐらいですね。

(事務局：市川地域課長)

入って右側に事務室があって、奥のほうに机とか何かあるスペースがあるじゃないですか。あのくらいの広さ。

(大川委員)

それくらいはあるんですね、これは。

(渡辺委員)

これが何mの縮図かというのがわかれば想像がつくのですが、これだけ見せられても、小さくしか見えませんよね。これが大体、出張所の大きさが今の出張所と同じぐらいで、これがそうですよと言われれば、ああ、そうなのかなとか、この学習室が何坪ぐらいでと言われれば、大体想像がつくのですが、このポンチ図だと、どのぐらいの大きさのものなのという想像がつかないのですよね。

(大川委員)

でも、まだそれはわからないということであったわけで。

(渡辺委員)

そう、それがわからないというので。

(事務局：市川地域課長)

皆さんのイメージの中で交流スペースが例えばこのくらいの大きさが必要なのか、それとも例えばあそこぐらいの小さい、それによってまた全然違ってきますからね。

(渡辺委員)

ただ、小林課長補佐が作られた交流スペースのスペースがこれであれば、じゃ、皆さん納得ですって言うのであれば、そのまま行くのかもしれないですし。

(事務局：石塚西出張所所長)

だから、何度もお話を、皆さんとイメージが合っていないのかもしれない。この3階に描いてある多目的ホールというのは、西コミセンよりも大きいのですよと言っているわけ。それが皆さんのほうに伝わっていないのですね。

(大川委員)

西コミセンより大きくても、この舞台じゃ。

(事務局：石塚西出張所所長)

いや、だからそういう話ならそこを言ってもらえばいいので、大きさ的にはあれよりも。

(大川委員)

西コミセンより大きいという。

(事務局：石塚西出張所所長)

西コミセンの2階のあのスペースよりは大きい。このイメージとしては。そうすると。

(大川委員)

でも、あそこだってそんなに大きいというイメージ、感じではないですよ。

(事務局：石塚西出張所所長)

そうなら、そこでもっと大きいのが要ると言ってもらえば。

(大川委員)

はい。もっと。西コミセンのそんな大きいという感じはしないです。

(事務局：石塚西出張所所長)

例えば、あそこに椅子を並べてみんな入りましようと言ったときに、200は楽に入るから。

(大川委員)

ぎりぎりですよ、200。だって、ちょっと演奏をし…。

(事務局：石塚西出張所所長)

いや、200って言ったら入りますよ、あそこ。

(大川委員)

椅子並べて。でも、演奏なんか、誰か舞台というか、舞台じゃないですけど。

(事務局：石塚西出張所所長)

舞台がないから、でも、前に出てきているけど、それにしても200ぐらいは入りますよ。

(大川委員)

西コミセンですか。

(事務局：小林地域課長補佐)

西コミセンは320。

(大川委員)

そんなにあんな大きいと思えないのですけれども、使ってみて。

(渡辺委員)

それは前の舞台設備をどのぐらい取って、その段階から椅子を並べていくつかというのは、多分今言われている数字とは若干誤差は出るのでしょうか。

結局僕らがイメージしているのは、すごくいいものはいって、それはわかるんですよ。でも、今さっき、事務局が言われたとおり、いいものを作れば利用料が上がるよ、じゃあ、本末転倒な部分はあるんですよ。僕らが使ってほしいのは、お金を取って演奏をする人たちじゃなくて、お金ただでもいいから来てよという人を誘致しようとしているわけだから、そ

こはやっぱりある程度簡素化したものでも、僕は問題ないと思うんですよ。逆にそんな可動式の舞台だと、学生引きますよ。やる人間がまず。中学生もあんなとこでやったらどうしようとなっちゃうと思うので、それだったら、みんなが見て、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが見に来てもらえるものを造ってあげたほうが、逆に子どもたちが喜べるものになるのではないかなという気はするんですけどね。

(大川委員)

見えにくいなという意見はありました。

(渡辺委員)

そうそう。それはそう思います。

(大川委員)

平たいところに並ぶので、自分の子を、自分の子ができるって先に後ろのほうだと、見にくいよねっていう意見もあったことはあった。

(渡辺委員)

確かに、それはそうですよね。

(岡本会長)

ホール議論は相当続くと思うわ。そんなに要る、要らない、可動式にせい、舞台が要る、要らない、音響効果も、それも要らないという。

(渡辺委員)

でも、ほら、ホールを造るにしても、舞台をこっちに造るのか、こっちに造るのかでまた変わるのですよね。

(岡本会長)

大体今日イメージわかったものだから、またいろんな意見が出たので、それをこう、メリハリつけて、一辺倒でこれぐらいで仕切って、ここは何だ、ここは何だというのでなくて、その目的そのものが成功できるというメリハリをつけた中で考えてもらうと。

ただし、位置づけを、一番大きなのは、4階が駄目であれば、その行政施設を同じところに置くのか、2階に置くのか、下に置いて、1階にまちの人たちが自由に集まってくれる、今出ている意見をどこまで1階に入れられるかという感じだと思うんですよ。そのところも研究してもらって、そして、最後に集会、多目的ホールは、どういう位置づけで、どんなグレードの多目的ホールができるのかってやつも、また次、議論してもらおうということだと思うんですが。

そして、欲を言えば、避難場所も頭に入れながら、4階ができるのかできないのか、屋上
が避難誘導に自由に使えるのか使わないのかというのも検討してもらって、そんなやつでも

う1回やってもらいたいと思うんですが。

それと、コンセプトはいいですか。コンセプトが面倒なのだって、行政施設が入っているから、学習室と集会所1つだったらただら出してくるのだけでも。あれですか、集約して、予算角度でいくけれども、コンセプトから入らなかったら駄目だと思うので。

(事務局：小林地域課長補佐)

コンセプトはあまり行政施設のことは考えなくていいですよ。

(岡本会長)

なら、まちの人たちがみんなで集う建物だということだと思うね、コンセプトは。そこから人づくり、まちづくりができる、情報発信の場であるという、そういうコンセプトだと思うんですわ。

ということで、今日、はや9時過ぎてしまった。すみません。あとは、次の会議、来月の会議どうなりますか。

それで、私が言うのは、次にやるときは、場所をどこにするとなると、これ、一般公開だとなかなか難しい面があると思うんですよ。あそこ当たれやと、こここうせいやという話が出てくると、私は公開だと非常に大きい当たりがあると思うんですよ。従って、ここで皆さんから議論して決めてもらいたい。その場所を、ほとんどの位置づけをきちっと、方針だけするのであれば、非公開にして、そして場所の議論をします。これが必要でないかと思うのだけでも。

(事務局：市川地域課長)

それはそれで決めてもらえば。

(岡本会長)

じゃあ、皆さん。次は、場所の選定も大体どこかというのを決めるのですが、流れとしては。第2段階に入って。

(事務局：小林地域課長補佐)

考え方としては、基本的には要望が出た内容にプラス、何かあるかどうかわかりませんが、まずその特性というか、それは場所はどういうふうな、いろんな条件を、交通条件もあれば、地域…。

(岡本会長)

それはわかっているけれども、その議論をすると、民有地買収するのか、今のところ壊して造るのかという話に入ってくると、民有地の話までなると、公開でいいの？

(事務局：小林地域課長補佐)

それは公開では、自由な話はできないと思います。

(岡本会長)

私はうまくないと思いますよ。

(事務局：市川地域課長)

それは皆さんの上で、非公開というふうに決すれば。

(岡本会長)

非公開にして、大体方向づけと議論するのであれば、非公開に次はして話をしたほうがいいのではないですか。

(事務局：小林地域課長補佐)

はい。

(岡本会長)

従って、「いや、あそこ行政が買うんだってや」なんて話が出て困るし。だから、非公開にして、その場所については、次の会議は、場所の決定に向けて方向付けをしなければ駄目なのでしょう？

(事務局：小林地域課長補佐)

そうですね、検討委員会の意見としては。

(岡本会長)

私どもの意見。

(事務局：小林地域課長補佐)

ただ、場所が決まるというのはだいぶ先の話になって。

(岡本会長)

いや、場所が決まるのでなくて、ここである程度の、こういうところへ 116 号線の内がいいのか、新川の内がいいのか。

(事務局：市川地域課長)

そういう場所の絵ですね。

(岡本会長)

というようなものも、私どもの意見として、最終的に方向づけ詰めるときに、非公開のほうがいいのではないですかということなんです。

(事務局：市川地域課長)

それで結構です。

(岡本会長)

ということで、じゃあ、来月は非公開にして、用地ということになりますか。委員の皆さん、どうですかね。

(一同)

はい。

(岡本会長)

じゃあ、そういうことにしたいと思います。あとは何か事務局ありますか。

(事務局：西区地域課職員)

では、日程の調整をさせていただければと思います。こちらの事情ですが、2月議会が始まる関係もありまして、来月は一旦ちょっと空けさせていただいて、3月4日が月曜日になりますので、できましたら、次回は3月4日、月曜日の夜7時から、分庁舎2階の大会議室のほうでお願いをしたいと思いますが。

－ 意見なし －

(事務局：西区地域課職員)

では、そういうことでお願いしたいと思います。

(岡本会長)

あと皆さんのほうから何か意見ございませんか。何でもいいですから。

(大川委員)

とりあえず、道上先生がおっしゃられたように、ちょっとでこぼこのかっちり決めないで、重きを、重点を置くのと置かないのというのを、ちょっと考えて。

(岡本会長)

メリハリ効かしてね。

(大川委員)

メリハリつけて、その辺りの。

(岡本会長)

はい。じゃあ、今日はどうもありがとうございました。